

『明日の子供たち』

有川 浩 著

3 アス

児童養護施設を舞台にした作品です。新任職員の三田村は、元営業マンで人一倍やる気に満ち溢れ、施設の子供たちと打ち解けよう、子供たちの気持ちに寄り添いたいと奮闘します。施設には年齢も性格も様々な子供たちがいて、それぞれに悩みや不安を抱えています。「人の気持ちに寄り添い、支えあうこと」を大切に。子供にかかわる仕事がしたいと考えている人におすすめしたい一冊です。

NAKAGOME(八千代)



『愛を見つけたうさぎ』

—エドワード・デュレインの奇跡の旅』

ケイト・ディカミロ 著 子安 亜弥 訳

1 アイ

陶器のうさぎエドワード・デュレインは、美しいスーツや帽子、上質なパジャマ、そして自分を愛する少女に囲まれ、すべてを持っていました。ただ欠けていたのは、愛する心です。自分本位な彼は、旅先で出会いと別れを繰り返し、愛の意味を知っていきます。一人、また一人と関わる中で、彼は本当の愛に気づけるのでしょうか。それとも自分本位なままなのでしょうか。この物語を読めば、きっとあなたも気がつけるかもしれません。本当の愛の形に。

N・M(八千代東)



『あの夏が飽和する。』

カンザキ イオリ 著

4 アノ

物語の中心となるのは、十三年前に恋人の流花を失った主人公の千尋が、彼女に生き写しのような高校生・瑠花と出会うことで再び動き出す話です。この小説は、過去と現在が織り交ざりながら進むため、感情の揺れ動きが大きく、サスペンス要素と人間ドラマが見事に描かれています。切ない恋愛や人間関係の複雑さがテーマになっており、読者の心に深い印象を与える作品です。

Y・K(八千代東)



『赤毛のアン』

モンゴメリ 著 松本 侑子 新訳

2 アカ

カナダのプリンス・エドワード島、グリーン・ゲイブルズに暮らすマシューとマリラは、孤児院から十一歳の少女、アンを引き取ります。明るくおしゃべりで、豊かな想像力を持つアンは、愛と友情の大切さを教えてくれます。また、作中には数々の名言が登場します。行き詰ったとき、名言に何度も救われ、アンのように考えることで私も成長できました。日本初の全文訳・訳注付き『赤毛のアン』シリーズ第一巻は、誰もが共感できる感動の成長物語です。

A・K(八千代東)



『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

汐見 夏衛 著

この物語は、現代に生きる少女が戦時中の日本へとタイムスリップし、そこで出会った青年兵士と心を通わせていく感動の物語です。戦争という過酷な現実の中で育まれる絆と、限られた時間の中で切ない恋が、読む人の心を強く揺さぶります。命の大切さや平和の尊さを改めて実感させてくれる一冊で、涙なしには読めません。ぜひ読んでみてください。

K・U(八千代東)



『あの花が咲く丘で君とまた出会えたら』

汐見 夏衛 著

この本は戦時中の日本を描いた物語です。学校も親も全てが嫌になった中学生の女の子が第2次世界大戦中にタイムスリップしてしまいます。そこで特攻隊である少年と出会い当時の日本の悲惨さを知り今ある生活のありがたさを知ります。

涙なしではいられないストーリーー！是非読んでみてください！！

NAKAMURA(八千代)



『雨上がりの空に君を見つける』

菊川 あすか 著

人の感情が色で見えて周りに合わせてばかりいる女子高生の花蓮と、何故か感情の色が見えない、言いたいことをはつきり言う同級生の蒼空の二人の恋愛小説。

ある日、「もし空に花が咲いたら、俺とつき合う？」と蒼空が言う。花蓮は空に花が咲くことはないと思う。何故蒼空の感情の色が見えないのか。空に咲く花とは何なのか。二人の恋の行方はどうなるのか。

恋愛小説が好きな方、感動する話が読みたい方におすすめです。

R・S(八千代東)



『アリス殺し』

小林 泰三著

不思議の国のアリスが元になったミステリー小説。

栗栖川亜理は最近夢で不思議の国に迷い込んでいた。ある日の夢の中で、ハンプティダンプティが転落死した。大学に行く王子と呼ばれていた大学生も転落死していた。同じ夢を共有する人も現れ、夢で次々と起きる殺人事件、それと同時に同じような人が現実でも死んでしまう。亜理は夢と現実がリンクしているのでは、と考えるが亜理は夢で起きた殺人事件の容疑者となってしまう。

TADA(八千代)



『アリス殺し』
小林 泰三 著

主人公の栗栖川亜理は、ここ最近不思議の国に迷い込んだアリスの夢ばかりみている。そんなある日、不思議の国で殺人事件が起きてしまう。不思議なことに夢と現実世界はリンクしているように、不思議の国の住人と亜理の周りの人々は次々と殺されていく。そんな内容疑者となってしまうアリス。同じ夢をみているとわかった井森と共に犯人捜しに疾走するが…。

少々グロテスクな表現を含みますが、絶対に想像を超える本格ミステリーです！ぜひよんでみてください！

H・K（八千代東）



『生きるぼくら』
原田 マハ 著

理不尽ないじめによって高校を退学し、引きこもり生活になってしまった主人公。そんな主人公が祖母のために取り組んだ米作りを通して、食べることの大切さ、家族のありがたさを噛みしめます。米の苗の成長と人生の心の成長が重なり、生きることの豊かさを感じられる物語です。ぜひ読んでみてください。

TERASAKI（八千代）

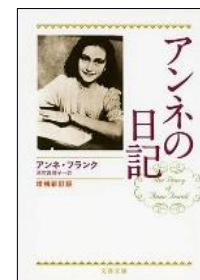


『アンネの日記』
アンネ・フランク 著

私が中学生の頃から何回も読み直している本です。当時のユダヤ人の迫害について、アンネがどんな生活をしてたのか、恋愛事情、当時のドイツの状況について鮮明に描き綴られています。

「今日は私の誕生日。お父さんに新しい洋服をもらったわ。」「お気に入りのアイスクリーム屋さんに行ったらユダヤ人には売って貰えなくなった。」など、本当に毎日の些細なことが日記に綴られていて、すごく胸が苦しくなる一冊ですが、絶対読むべき本です。

KATAOKA（八千代）



『1日外出録ハンチョウ』
萩原 夫晴 著

漫画『カイジ』の世界に登場する帝愛地下労働施設を舞台にした作品です。主人公の大槻班長（ハンチョウ）が、月に一度与えられる「1日外出券」を使って地上での生活を最大限に楽しむ姿が描かれています。地下の厳しい生活とは対照的に、外出先では趣味や娯楽を楽しみ、美味しいものを食べるなど、大人の贅沢を味わう姿がとても面白いです。普段、漫画をあまり読まない自分が思わずドはまりました。これを機に、一味違ったこの漫画をぜひお試しください。

S・U（八千代東）



『絵で読む漢字のなりたち』

金子 都美絵 著

15 イデ

東洋文学者の白川静はとても有名な方で、漢字や中国の古代文化の研究に取り組み、漢字の成り立ちについて多くのことを発見した人物である。この本は、その白川氏の著書「常用字解」を参考に書かれている。文字だけで説明されているものは興味があっても頭に入るのは難しいが、この本には絵も入っている為、内容が理解し易い。中国の古代文化も絡んでいるので、漢字だけでなく中国文化にも興味のある人にオススメしたい一冊である。

R・S（八千代西）



『一瞬の風になれ』

佐藤 多佳子 著

13 イ

中学生までサッカーを続けていた主人公が、高校入学を機に陸上部に転向し、様々な友人とともに成長していく物語です。今まで好きだったサッカーを離れ、陸上部に入部する場面、主人公が陸上という競技に熱中していく場面など、人の心情がとても豊かに表現されている作品です。何かに熱中している人、スポーツが好きな人にはぜひ一度読んでみてほしいと思います。

T・T（八千代西）



『N/A』

年森 瑛 著

16 イ

この作品の主人公は女子高生。十代という不安定な時期の心の揺れが、驚くほどリアルに描かれています。「欲しいのは彼女でも彼女でもなく、かけがえのない他人が欲しい」という主人公の一言にとっても共感しました。性別や人種といった外側のラベルによって、本来の声が見えなくなってしまう、そんな社会の構造に対して作者は鋭く問いを投げかけます。それでいて文章はとても読みやすく、一気に読めてしまう作品です。

K・Y（八千代東）



『エースの翔道』

西田 有志 著

14 イー

この本は、西田有志がバレーボール日本代表のエースとなるまでの軌跡と覚悟を描いた本です。中学時代から始めたバレーボールでの苦難や、トップ選手としてのプレッシャーと向き合う姿が語られています。フィジカル・メンタルの鍛え方や試合への取り組み方も詳述され、読者は努力と情熱に触れることができます。

アスリートやスポーツファンにとって、学びと刺激をもたらす一冊です。

KIBA（八千代）



『大家さんと僕』

矢部 太郎 著

19材

作者と作者が下宿している家の大家さん（八十七歳、女性）とのふれあいを描いた実話漫画です。ほのぼのしていてクスツと笑え、心が温かくなるすばらしい作品です。

私も大学生の頃、下宿していました。が、大家さんとはドライな関係でした。

T・N（八千代西）



『王様ゲーム』

金沢 伸明 著

17材

金沢伸明のクラスに、「王様」を名乗る人物から「王様ゲーム」という謎のメールが届く。クラスメイトたちは当初は面白半分でそのメールに書かれた命令に従っていたが、命令3で命令に従わなかったクラスメイト2名が、翌日首を吊って自殺する。その後も命令に従わないクラスメイトたちは次々と変死し、命令の内容も次第に過激になっていく。

内容は悲惨ですが面白い作品です。

NOTO（八千代）



『おしえてウルトラマン』

宮西 達也 著

20材

強くなりたい、尊敬されたい、なんて涙がでるの？結婚後の主人が優しくない…。そんなみんなが抱える色々な悩みや相談を正義の味方ウルトラマンが答えてくれる本です。例えば、尊敬されたいという質問には、「自分のためにとか考えて行動するのではなく、誰かのために一生懸命行動する人が偉い人だ」とウルトラマンだからこそ説得力がある言葉を使って答えてくれます。悩みを持っている人、誰かに背中を押してほしい人はぜひ読んでみてください。

D・T（八千代東）



『おおきな木』

シルヴァスタイン 著

18材

これは木と少年の物語です。あるとろに、一本の木がありました。木の傍には一人の少年がいました。木は少年に自分の身を削りながら幸せを与えていきます。与えること、与えられること。そのどちらの視点にもなることができます。

与えられることが幸せなのか。それとも相手に尽くすことが幸せなのか。もっと違う視点で読み深められるかもしれません。どういう解釈をするかはあなた次第です。

ZINBO（八千代）



みんなには隠している、ちょっとだけ特別な力をもった五人の少年少女が送る青春小説です。友情や恋愛を楽しむ一方で、時には人間関係のすれ違いや悩みに振り回されていきます。不器用ながらも相手を思いやり、段々と打ち解けていく。そんなもどかしくて甘酸っぱい彼らの日常を切り取った、優しさに溢れる一冊です。

ZYODA(八千代)



主な主人公の時田翼を中心に、隣人トラブルから始まる家族のお話で、時田翼とその周辺人物達による視点で構成される連作短編集です。それぞれの立場や役割からの視点があり、捉え方や考え方が違ってくるので、読み進めていくうちに印象が変わっていく部分も楽しめるでしょう。また、しみりとした気持ちにもなります。最初と最後で物語の印象が打って変わって楽しめる、そんなおすすめの一冊です。

A・A(八千代東)



年を取ったせいか、色んな事にすぐ感動し涙してしまう。本も好きでよく読むのだが若いころには考えられない「本を読みながら泣く」ということが起きる。百田尚樹氏の本はその傾向があり、『永遠の0』、『海賊と呼ばれた男』、『BOX』と泣けたのであるが、一番泣けて何度も読み返したのが、この時代劇小説で、思いやりの究極を感じさせてくれます。人間関係に悩んでいる人は一度読んでみてください。心にしみます。

T・H(八千代西)



軸がぶれずに雑草のように強く生きているのが伝わる。いい加減なやけくそではなく、最大限の努力準備をしたうえで、自分を信じて覚悟を決める。また様々なアドバイスや指示を受けても最終的な責任は自分が持つ。他責にはしない。この点に共感を覚えた。野球中心の生活を行う為にルーティンをひたすら守り雑念を追い払うストイックな意思の固さ。本書では反骨心にも触れられていた。ジヤイアンツに入団した理由と経緯やマスコミに対する当時の疑念も吐露されており、より上原さんの考えが理解できた。

K・M(八千代西)



『風が強く吹いている』
三浦 しをん 著

この本は箱根駅伝出場を目指す大学生たちの友情と成長を描いた小説です。初心者から才能溢れるランナーまで個性豊かなメンバーが集まり共に苦しみ、支え合い、夢に向かって走り続ける姿は、読む人の心を熱くさせてくれます。困難を乗り越え絆を深めていく過程は感動的です。ぜひ読んでみてください。



I W A S A K I (八千代)

『仮面病棟』
知念 実希人 著

田所病院のアルバイトで当直勤務をしていた外科医の速水秀悟は、ある夜ピエロの仮面を被った男が自ら発砲して傷つけた、川崎愛美を治療するように依頼されます。ピエロの男はそのまま病院内を占拠し、病院内がピエロの男に巻き込まれてしまうというストーリーです。この本は読み進めていくごとに、謎が明らかになっていきます。普段本を読まない方でも、楽しく、深く読める、そんなおすすめの一冊です。



R・S (八千代東)

『家族という病』
下重 暁子 著

全ての人が関わってきたであろう「家族」という存在、それは本当に素晴らしいものなのでしょうか。振り返ってみると家族内のトラブルや気づくことのなかった事実など複雑かつ曖昧な関係とも考えられます。一家団樂を求める日本人ですが、本当の「家族」とはどのような存在のことなのでしょうか。この本で理解できるかもしれません。



N A G A I (八千代)

『仮面病棟』
知念 実希人 著

物語の始まり自体は普通のサスペンス小説と変わらないけれど、読み進めていく中で何かおかしい点に気づくと思います。

あらすじは、田所病院にて当直勤務をしていた速水秀悟は、ある夜にピエロの仮面を被った男から女を治療するように依頼されます。そのまま男は病院に龍驤(りゅうじょう)し速水は人質として監禁されてしまいます。その中で異変が起こり、速水は病院に隠された秘密を知ることになります。最後まで展開が読めないそんな一冊です。



R・S (八千代東)

時雨沢 恵一 著

人間の「キノ」と喋る二輪車の「エルメス」が、個性豊かな国々を旅する一話完結の物語。
 「優しい国」、「同じ顔の国」、「人を殺すことができる国」…。
 一話完結型なので少し時間が空いたときなどに気軽に楽しむことができます。
 さまざまな国を旅する中で、不思議で面白い話や考えさせられる話までたくさん話があり、読めば読むほどどんどん話に引き込まれていくはずですよ。
 キノたちと一緒に、不思議な国々を旅してみませんか。

K・S（八千代東）



0号室 著

恋愛に対する本に見えますが、実はそれだけではなく、大切にしたい人との関係で重要な事柄が書かれている一冊です。恋人だけではなく家族や友人など、貴方が大切にしたい人との絆を強くする言葉が綴られています。「あなたが思っている以上に、あなたは大切にされているからね」。この本の中で私が一番心に残った言葉です。

読む人によって刺さる言葉が違ふと思います。人間関係に悩める人には是非一度、読んでもらいたい一冊です。

H・K（八千代西）



吉野 源三郎 著

社会に生きる人間として、私たちはどうあるべきか。この小説は、主人公のオペル君とその叔父さんとのやりとりを通じて、人生や社会について深く考えることの大切さを教えてくれる作品です。その内容は、社会と個人の関係、友人関係、学びの重要性、生きる意味など多岐にわたります。約90年前に書かれた作品ですが、現代を生きる君たちにも大いに学ぶことのあるものだと思います。漫画版もあるので手軽に手に取ってみてください。

T・Y（八千代西）



高津 修・遠藤 義人【文】 長崎 訓子【絵】

この本は、音の仕組みや耳の働きをわかりやすく解説した科学絵本です。娘の課題図書で、面白そうなので読んでみました。音楽や科学に興味がある高校生に特におすすめです。音の伝わり方や耳の構造、聴覚の不思議について学べる内容が豊富で、日常生活や学習に役立つ知識が満載です。読みやすい文章とイラストが多く、楽しく学べる一冊です。改めて音と耳について学びたい人はぜひ手に取ってみてください。

Y・N（八千代西）



『鬼滅の刃』
吾峠 呼世晴

35 ｷﾒ

『鬼滅の刃』は、大正時代を舞台にした物語です。竈門炭治郎（かまどたんじろう）という少年の家族は鬼に殺されてしまい、炭治郎と妹だけが生き残ります。しかし、妹は鬼になってしまいました。炭治郎は鬼殺隊という組織に入り、たくさん鬼と対峙して、妹を人間に戻すための手がかりを探して協力者と共に歩みます。また鬼滅の刃は、第四十四回日本アカデミー賞で最優秀アニメーション作品賞を受賞し、またアニメ主題歌でも優秀な賞を受賞した人気作です。

T・E（八千代東）



『君たちはどう生きるか』
吉野 源三郎 著

33 ｷﾐ

この本は、15歳の少年・コペル君が経験する日常の出来事を通じて、人間としての生き方や社会のあり方について考えさせられる名作です。叔父との対話を交えながら、友情、正義、勇気、自己の成長といったテーマが深く掘り下げられています。読者に人生の指針を与える一冊として、多くの人々に愛され続けています。ぜひ読んでみてください。

HIRAKAWA（八千代）



『嫌われる勇氣』
岸見 一郎 著

36 ｷﾗ

本のタイトルで誤解する人もいますが、嫌われましょうという内容ではなく、自分と他人を切り離しましょうという話で他人との人間関係について高校生くらいになって意識するようになるので、アドラーの哲学を物語形式で学べるとても良い本です。

KUDOU（八千代）



『君はきっとまだ知らない』
潮見 夏衛 著

34 ｷﾐ

私はこのクラスの幽霊だ。クラスの全員から無視されている光夏。でも、強がりな彼女は誰にも自分の苦しみを打ち明けない。そんなある日、ずっと会っていないかった幼馴染の千秋が突然、光夏の前に現れた。同じく幼馴染の春乃や冬哉も加わり放課後を共に過ごすようになり、彼らとの触れ合いの中で、頑なだった心は解けていった。しかし、ある違和感を覚えた光夏は、取り返しのつかない秘密に気づいてしまう。衝撃のラストに思わず涙。イジメの怖さと言葉にしないと伝わらない事に気付かされる。

HINO（八千代）



『ぎんなみ商店街の事件簿』

井上 真偽 著

39ギン

この作品は、商店街を舞台にしたミステリー小説で、三姉妹が主人公の「Sister編」と、四兄弟が主人公の「Brother編」という二つの視点から物語が展開します。同じ事件を異なる視点で描き、編ごとに少しずつ真相が明らかになるのが見どころです。文章は比較的読みやすく、普段読書をしていない方にもおすすめです。ぜひ読んでみてください。

YAMADA (八千代)



『きりんのまいにち』

二宮 由紀子 著

37 判

森の中で暮らすキリンは、ちょっとだけ不器用だけど、まじめでやさしい性格。そんなきりんの毎日は、とても平凡で、でもどこかユーモラス。友達のかたつむりやカエル、カメレオン先生など、個性豊かな動物たちとの関わりの中で起こる、小さなできごとが綴られています。

子どもは読み聞かせに、大人にはスロウライフの癒しとしても良いです。一日一話、ゆっくり絵本を読みたい人などにおすすめの一冊です。

R・T (八千代東)



『薬屋のひとりごと』

日向 夏 著

40 珞

古代中国風の宮廷を舞台にしたミステリーと恋愛が絡み合う物語です。主人公の猫猫は、薬の知識に優れた賢い少女で、偶然宮廷の後宮で下働きすることになります。そこで次々と起こる不思議な事件に、彼女の観察力と知識で挑むことに！普段は無関心を装っている猫猫だけど、事件に巻き込まれていくうちに、宮廷の秘密や謎めいた人物たちとの関係が少しずつ明らかになっていきます。緻密な推理と、猫猫のクールで少し変わった性格が魅力で、一度読み始めたら止まらないはず！



KANAMARU (八千代)

『逆ソクラテス』

伊坂 幸太郎 著

38ギヤ

伊坂幸太郎さんによる小学生が主人公の短編集。主人公は学校の先生や大人たちの理不尽に疑問を抱き、立ち向かうことを決意する。小学生があーでもない、こーでもないと話しながら、逆転の作戦を決行していく過程は読んでいて面白く、最後は彼らの思いやりや小さな勇氣にぐっとくる、そんな作品です。表紙絵は画家のJunaid (ジュナイド)さん。絵本もたくさん描かれている方なので、こちらも気になる方は是非。

S・N (八千代西)



『このプリン、いま食べるか?ガマンするか?』

柿内 尚文 著

43 コ

人生は4つの時間で作られている。「幸福の時間」「投資の時間」「役割の時間」「浪費の時間」。有限な時間が進む中で、人生は常に選択に迫られる。そんな中で時間をどう使ったら良いかが丁寧に書かれています。

やりたいことがない時は、自分の心が喜ぶ時間を作ることで、すべきことをやりたいうことに変えることが大切、という言葉が印象に残りました。

J・W(八千代西)



『高校事変』

松岡 圭祐 著

松岡圭祐さんの『高校事変』は、高校を襲撃されるという非日常の中で、主人公・結衣、冷静に戦い抜く姿が印象的でした。暴力団の娘という過去を背負いながらも仲間を守ろうとする強さに心を打たれました。スリリングな展開の中に、「正義とは何か」という深いテーマが込められていて、読み終えた後も考えさせられました。社会の闇や命の重みについても深く考えさせられる作品でした。

R・K(八千代東)



『声が聞こえたで始まる七つのミステリー』

小森 香折 著

44 コ

『この夏のこともどうせ忘れる』

深沢 仁 著

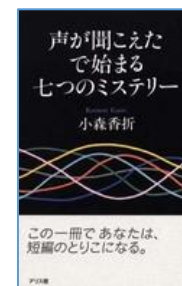
子供の頃、夏ってなんだか特別な季節じやありませんでしたか? 学生では無くなってしまう方々にとっては、ただの四季の一つかもしれない。ですが、高校生の私にとって、夏は記憶に残るような少し特別な出来事が多い季節です。そして、この本にもこの世界の何処かであつても可笑しくない、少したけ特別な夏の思い出が書かれています。この本を見て、今まで忘れていた少したけ特別な夏のことを思い出してくれたら嬉しいです。

K・M(八千代東)



すべての物語が「声が聞こえた」という一文から始まる、少し風変わりなユニークな短編集。同じ出だしにもかかわらず、物語の舞台や登場人物、展開はまったく異なり、それぞれが個性豊かな魅力が放っています。読みやすく、文体も親しみやすいため、普段あまり読書しない方やミステリーが得意でない方でも物語の多様性を楽しめる、そんなおススメの一冊です。

T・H(八千代東)



『コンビニ人間』

村田 紗耶 著

47 コ

2016年に芥川賞を受賞した作品です。コンビニバイト歴18年の主人公の女性は、世界の歯車になれる店員の仕事に満足した生活を送っていました。しかし、あるときそんなコンビニ的生き方は恥ずかしいとの指摘を受けます。たくさん普通のを集めた主人公が他人には「異常」に見られてしまう話です。自分がこれまで「普通」と思ってきたものは本当に「普通」なのか考えさせられます。

TAKEKAWA(八千代)



『5万年後に意外な結末』

桃戸 ハル 著

45 ゴ

短編集ですが、一つ一つの話がとても短く約90話ほど掲載されています。話の基本構成は1ページ目で状況が説明されます。次の2ページ目で話の見方がガラッと変わります。結末を読んだ後と前の話の変わり方は予想出来ないことが多くページをめくる手が早くなっていくと思います。短い話なので、本を読むのがあまり好きではない人も楽しめると思います。

SATO(八千代)



『今夜、世界からこの恋が消えても』

一条 岬 著

48 コ

この物語は、眠るごとに記憶を失ってしまうヒロイン・真織と、彼女に恋をした青年・透の切なくも温かいラブストーリーです。記憶障害という残酷な運命の中で、二人は「今日の幸せ」を大切に重ねていきます。淡い恋心と深い絆が描かれ、忘れることが前提の愛に、観る者の心が揺さぶられます。涙なしでは観られない感動作です。

M・Y(八千代東)



『5分後に意外な結末 ベストセレクション』

桃戸 ハル 著

46 ゴ

読者の心を掴む、衝撃的な結末が用意された、短編ミステリー小説シリーズです。五分で読める短編の中に、友情、家族、恋愛、ホラーなど、様々なジャンルのストーリーが収録されているので、次々に予想外の展開に驚かされます。どの世代にも人気があり、本を読むのがあまり得意ではない人にとっても気軽に読めると思います。皆さんもぜひ読んでみてください。

M・I(八千代東)

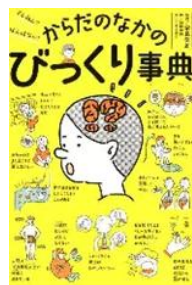


『ざんねん?はんばない!からだのなかのびっくり事典』 51 ザ
奈良 信雄【監修】 加納 徳博【絵】 こざき ゆう【文】

「からだ」について、何か知っていますか?この事典は、からだについて、ざんねんなこと、びっくりすること、なぞのことを解説して教えてくれます。

例えば、人間は光っている。第二の脳とは?血液型C型。ため息は体に良い。など。

体について、知識を少し増やすことで、日々の過ごし方も変わるはず。昨日の自分と今日の自分の体は、同じというわけではありません。明日の自分のために何を食べますか。



H.Y(八千代西)

『桜のような僕の恋人』
宇山 圭佑 著

49 ヌ

桜のような僕の恋人は若きカメラマン見習いの男性と美容師として働く明るい女性の恋愛物語です。しかし、二人の前に思いもよらぬ運命が立ちちはだかり、その運命から二人がどのような選択をするのか。この本は「今」を大事にすることを伝えてくれると思います。この本を読んで大切な人や友達と過ごしている日々は当たり前前でないことや「今」を大切にすることを伝えてくれます。

是非読んでみてください。

MEGURO(八千代)



『葉と嘘の季節』
米澤 穂信 著

52 ヌ

高校で図書委員を務める堀川次郎と松倉詩門。あるとき、図書室の返却本の中に押し花の葉が挟まっているのに気づく。小さくかわいらしいその花は、猛毒のトリカブトだった。持ち主を捜す中で、ふたりは校舎裏でそれが栽培されているのを発見する。そして、ついに被害者が出てしまった。誰が彼を殺そうとしたのか。次は誰が狙われるのか…。

その葉は自分のものだと言主張する瀬野と共に、二人は真相を追う。



YABE(八千代)

『さるのこしかけ』
さくら ももこ 著

50 ヌ

この本は、『ちびまる子ちゃん』の作者、さくらももこさんが書いた短編集です。著者が小学生から大人になるまでの日常を描いた物語となっています。この本は、読んでいると自然に笑顔になれるほど面白くて温かい気持ちになれるお話です。普段あまり本を読まない方々でも、本の楽しさが分かる一冊となっています。

H.S(八千代東)



『柔道にはなぜ黒帯があるの?』

船井 広則 榎本 鐘司
瀬戸口 照夫 宇佐美 隆憲 著

55 ジュ 1

この本には、柔道、剣道、相撲、なぎなたの4種類について、その起こりから現代までの発展の歴史が書かれています。武道は教育の中にも採用され、その意義が認められています。単に心身の鍛錬だけが目的ではなく、人の意欲を引き出す方法が、武道ならではの視点で書かれています。読んでみると、日常生活の中によくあるちょっとした習慣が、武道の所作に由来していることなどもわかります。

I・K(八千代西)



『時給 300 円の死神』

藤 まる 著

53 ジキ

幾つもの不幸に見舞われどん底にいた主人公、真司はある日、同級生の花森雪希から「死神のバイト」に誘われる。曰く、死神のバイトは未練のある死者をあの世に送る仕事だという。時給三百円という安さに最初は躊躇していた真司だが、死者の未練に触れていく中で、少しずつ心境が変化していく。

不幸な人生に足踏みするだけだった主人公が、死者の未練と向き合う中で成長し、生きる力を身につけていく姿を描いた一冊です。

Y・S(八千代東)



『14 歳』

千原 ジュニア著

56 ジュ 1

14歳の少年はある日部屋へ引きこもりを始めた。複雑で、自分の中でいっぱいな感情を抱え、「戦うべきリング」を求めて彷徨う苦悩を描く。テレビで活躍する千原ジュニアさんの自伝的小説。どうやって彼が現在に至ったのか。誰が彼を引きこもりから抜け出させてくれたのか。読んでいて感情移入し、苦しいような気持ちになることもあります。心を動かされる衝撃の一作です。ぜひ読んでみてはいかがでしょう。

SAITO(八千代)



『実力主義も運のうち 能力主義は正義か?』

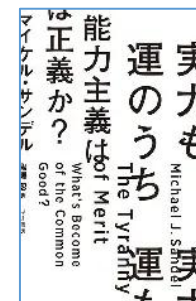
マイケル・サンデル 著

54 ジツ

昔の貴族社会では生まれによって人の地位や資産が決まっていた。その差別を打破するために現在では才能や能力、努力によって地位や資産を獲得する能力主義の社会に変わっていった。しかし、その変化によって人々の間の差別がなくなったわけではなかった。差別は形を変え、そしてより根深い問題を我々の中に残していったのである。

全世界で議論を巻き起こした、ハーバード大学の人気講義の書籍、ぜひ読んでみてください。

K・K(八千代西)



『白河夜船』
吉本 ばなな 著

59 シ

主人公の寺子は、仕事をせず、毎日少し広い部屋で寝て、家事をして、たまに彼氏とご飯を食べるような生活を送っています。一見気楽そうにみえる生活でも、問題や悩みはあります。疲れたら寝る、私達と何も変わらない日常を送っています。寺子はこのお話の中で毎日たくさん色々なことを考えて、疲れたら寝る、前を向くときになったら向けばいい、と日々を過ごすことが少し気楽になるようなことを教えてくれます。

H・Y(八千代東)



『十五少年漂流記』
ジュール・ベルヌ 著 山本 知子 訳

57 ジ

自分がこの本を紹介したいのは、本のページ数も多すぎず少なすぎずで小学生なども読みやすい作品となっているからです。

中学生の時に読んだことがありましたが、久しぶりに読もうと思いました。読んでみるととても興味深い話で、冒頭だけ話すと、「十四人の子供と一人の水夫見習いの少年にアクシデントがあり出航してしまいます。」と言うような話で興味があつたらぜひ読んでみてください。

A・M(八千代東)



『親愛なるあなたへ』
カンザキ イオリ 著

60 シ

私がこの本をおすすめしたい理由は、主人公の穂花と春樹のそれぞれの物語に現実性を感じ、同じ学生として、同じ目線で読めて自分の経験と結び付くことが多かったからです。また、読めば読むほど自分の周りの人や大切だと思える人との関わり方、今後周りとうまく向き合うべきかをたくさん考えさせられました。結末は、最後まで読まないと分からない所もこの本の面白い所だと感じました。ぜひこの本をみなさんに読んでほしいです。

N・S(八千代東)



『十角館の殺人』
綾辻 行人 著

58 ジ 1

孤島に建つ奇妙な館、そこで次々に起こる不可解な殺人。『十角館の殺人』は、新本格ミステリーの金字塔と称される綾辻行人の代表作です。クローズド・サークルものの魅力を凝縮しつつ、終盤に明かされる衝撃の一文が読者の視界を一変させます。巧妙に仕掛けられた伏線、独特の緊張感、そして圧巻のどんでん返し。ミステリー好きなら絶対に読むべき一冊です。

S・O(八千代東)



『新九郎、奔る!』

ゆうきまさみ

私は親から「マンガばかり読んでいるんじゃないやしません!」と言われ続けて育ち、65歳を越えた今も漫画ばかり読んでいます。本作は戦国大名「北条早雲」II伊勢新九郎盛時の若き日々を描いている。史実はふまえた上で、キャラの立った実在・架空の人物たちが自由に活躍し、楽しい。昭和“でいうところの”おもしろくてためになる「漫画(コミック)」。

S・H(八千代西)



『深夜特急』

沢木 耕太郎 著

26歳の沢木耕太郎は、軌道に乗っていたポライターの仕事をすべて投げ出し、インドのデリーからイギリスのロンドンまで、乗合いバスで旅をする。地球の大きさを、この足で知覚したいんだ。

『第一巻香港・マカオ』では、日本を立ち、香港の街の熱気に酔いしれ、マカオではサイコロ博奕に魅せられ、あわや…。あなたも一緒に、陸路2万キロのバスの旅を楽しみませんか?

I・T・O(八千代)



『深夜特急』

沢木 耕太郎

沢木耕太郎の「深夜特急」は、26歳の著者のインドからロンドンまでの旅を描いたノンフィクション小説です。新潮文庫にて全6巻出版されており、一巻では香港やマカオの旅路を中心として、行く先々での異文化・人々との出会いや予期せぬ出来事に巻き込まれていく様子が描かれています。単行本が1986年出版と約40年前の本ですが、いつの時代も変わらぬ旅の魅力を教えてくれます。読んだら最後、旅に出たくなること間違いなし!

H・F(八千代西)



『しんでくれた』

谷川 俊太郎 著

『しんでくれた』というタイトルはとても強烈に感じ、思わず心を奪われました。読み進めていくと「誰かが死に、誰かが生きる」という命の連鎖を伝えるメッセージが込められていました。谷川俊太郎によるシンプルな詩と、塚本やすしによる繊細なイラストに心を動かされ、私たちが生きていくために犠牲となる命の尊さを教えてくれます。子どもから大人まで、命と愛について静かに考えるきっかけを与える絵本となるでしょう。

A・N(八千代東)



『スマホ脳』
ハンセン 著

67 ス

スウェーデンの精神科医のアンデ
シユ・ハンセンが、SNSばかり見る子
供の将来への影響を著した本です。
IT企業トップのステイブ・ジョブ
スは子供にスマホを与えない理由が
あったり、SNSと人間関係、学業の
関係など研究をもとに分かりやすく
書いています。

OGAWA（八千代）



『スイッチを押すとき』
山田 悠介 著

65 ス

20xx年。増加し続ける青少年の
自殺。なぜ自殺してしまうのか。その
心理を解明するため、政府はとある
実験を開始した。それは10歳の子供
たちを施設に監禁し、心臓に埋め込
まれた自殺装置のスイッチを持たせ
るというあまりにも非人道的な実験。
スイッチ一つで簡単に死ねる世界
で、7年間生き続ける4人の子どもた
ち。そして4人を監視する訳あり監
視員。5人を待ち受ける、実験の先
にある結末とは。

HASEGAWA（八千代）



『スマホ脳』
ハンセン 著

68 ス

現在、世の中の生活の一部となっている
スマホ。必要不可欠なものであると思う人
は多いのではないかと思います。
私の子どもは自分のスマホは持っていない
のですが、誰かに教わった訳ではなく直
感的に親のiPadやスマホの画面を操作
しています。これには驚かされました。この
著書は、精神科医でもある著者が心理的・
医学的観点からスマホが人間の脳に与え
る影響を様々な角度から書いています。
「ステイブ・ジョブズは我が子になぜiPad
に触らせなかったのか？」という帯が気
になり購入したことを覚えています。集中
力やストレス、学習や運動についての内容
もあるため高校生のみなさんにも興味深
いのではないのでしょうか。みなさんも機会
があれば読んでみてください。

TAKAHASHI（八千代）



『すずめの戸締まり』
新海 誠 著

66 ス

『君の名は。』の世界的ヒット以来、国
内外で高く評価されている新海誠監督
が、美しい色彩と音楽で描きだす少女の
冒険物語。平穏に暮らしていた少女が
ある青年との出会いがきっかけで災いを
呼び込む扉の存在を知り、戸締まりの旅
に出る。
その矢先、日本中で扉が出現し始め、
その扉が開くことでさまざまな災いが
次々と起こっていく。そこで、少女は各地
の扉を閉める旅へ出発する。

TAKAHASHI（八千代）



『セーラー服と機関銃』

赤川 次郎 著

71 セー

この本はある普通の女子高校生が組長になり、ヤクザの組争いに巻き込まれ、非日常の裏社会の戦いに挑むストーリーです。

始終ドキドキハラハラが止まらないアクションと推理で構成された刺激満載の小説で、映画化もされており、公開当時は社会現象も巻き起こしています。

SATO (八千代)



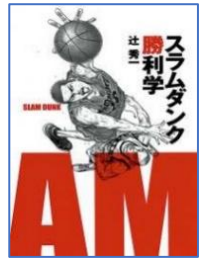
『スラムダンク勝利学』

辻 秀一 著

69 スラ

井上雄彦氏のバスケットボール漫画『スラムダンク』を題材に、勝利のための心のあり方や行動の法則を分析した一冊です。この本では、スラムダンクの名シーンや名言を通して、自己成長、チームワーク、リーダーシップの重要性を解説しています。特に心の「ゾーン」に入るための方法や、逆境を乗り越える心の持ち方が詳しく述べられています。スラムダンクファンだけでなく、自己啓発を求めるすべての人におすすめの本。

UMEDA (八千代)



『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著

72 効

余命宣告をされた30歳の男性が自分にそっくりな見た目の悪魔と出会い、大切なものと引き換えに一日の命を手に入れる契約を交わす。電話や映画など、当たり前前にあるはずのものが突然世界から消えたことで、かつての恋人や友人、家族に思いを馳せるきっかけとなる。そしてある日、悪魔に猫を消す提案をされる。この男はどんな選択をするのか。

TAKAHASHI (八千代)



『西洋絵画のお約束』

中野 京子 著

70 セイ

ヨーロッパが好きで旅行中美術館に立ち寄るうちに、聖書とギリシア神話から知らない絵画鑑賞ができないことを痛感した。昨秋に出版されたこの本は、シンボル(象徴)・アレゴリー(比喩)・メタファ(隠喩)・アトリビュート(人物を特定する持物)等になる薔薇・貝・百合・十字架に焦点を当てて説明してある。フェルメール「信仰の寓意」には十字架に貼り付けになったイエスが描かれているが、そこからプロテスタントの彼がカトリックに改宗していたことが読み取れたりする。世界史や絵画に興味がある生徒にはお薦めである。

NAKAGAWA (八千代)



『そしてバトンは渡された』

瀬尾 まいこ 著

75 ヲ

皆さんにとって家族はどのような存在ですか。おそらく、多くの人が血の繋がった親子と答えるでしょう。この物語は、読むと優しい気持ちになり、家族や愛情というものは決して血縁に限られるものだけではないと気づかされます。きっとあなたも誰かのことも自分自身のことも大切にしたくなり、多くの人との繋がりの中で生きていることの幸せを肌で感じるができます。

TANAKA (八千代)



『世界の終わりに柴犬と』

石原 雄 著

73 ち

もともと作者がツイッター(現X)で発表していた漫画で、現在KADOKAWAから単行本四巻が発売されている。また、YouTubeでショートアニメが配信されている。

文明が崩壊した無人の地球に、ただ一人生き残った人間の女子高生(ご主人)と、彼女に忠実に付き従う柴犬のハルさんが織りなす日常の日々を、コミカルに描いた内容で、柴犬あるあるもあり、柴犬好きにはたまらない漫画である。

H・S (八千代東)



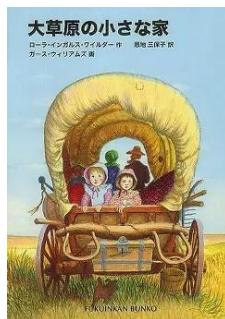
『大草原の小さな家』

ローラ・インガルス・ウィルダー 著

76 ダ イ

西部開拓時代のアメリカのある一家の物語です。保険も保障も全く無い時代に、幌馬車に揺られながらたどり着いた大草原に自力で小屋を建て、畑を開墾し、自力で全てを作り上げて生活する家族の前向きさとエネルギーが素晴らしい。それと、様々な困難を家族の強い「絆」や友人との「信頼関係」で乗り越えて行く姿も感動ものです。物が溢れていても人間関係が希薄な現代だからこそ、読んでほしい本です。

S・E (八千代西)



『世界はフムフムで満ちている』

金井 真紀 著

74 ち

進路に悩む学生やその保護者にオススメしたい、肩の力を抜いて読める達人の仕事図鑑。「牛飼い」「映画の背景画家」等々、いろいろな職業の人の話を著者がインタビューし、見開き2ページにまとめています。読んだら思わずフムフムと言いたくなります。

M・U (八千代東)



『田辺聖子の小倉百人一首』

田辺 聖子 著

79 ㍻

中学生の時に百人一首を覚えた経験がある人は多いと思います。好きな歌はありますか？百人一首大会のためにただ暗記するだけでは勿体ない。たった三十一字の和歌に、奥深く美しい世界が詠みこまれている。百首順番に4、5ページ程度にまとめられているので、自分が好きな歌の箇所を読んでもみるだけでも構いません。この歌にこんな意味が込められていたのかという発見の連続に、知性がくすぐられること間違いなし。

YAMAMOTO (八千代)



『宝島』

真藤 順丈 著

77 ㍻

『宝島』の物語は、少年ジム・ホーキンスが謎の地図を手に入れ、財宝を求めて仲間とともに航海に出る壮大な冒険小説です。狡猾な海賊・ジョン・シルバーとの駆け引きや裏切り、戦いを通じてジムが成長していく姿が描かれています。スリル満点の展開と豊かな人間ドラマや旅の中で出会う片足の海賊ジョン・シルバーの存在が物語に深みを与え、善と悪の境界を問う展開が魅力です。そして、海賊や無人島、財宝といった冒険の要素が満載で、今なお多くの読者を惹きつけています。

そんな一冊の本です。

Y・A (八千代東)



『たまごのはなし』

しおたに まみこ 著

80 ㍻

身近なたまごのひみつを優しく、でも奥深くひも解いてくれる一冊です。幼い好奇心をくすぐりながら、科学や自然への興味をそっと芽生えさせるお話は大人でも新鮮に感じられます。絵本なのに、思わず「へえ！」と声を上げたくなる発見の連続です。読み終わった後に世界が少し広がるような、そんな魅力があります。たまごの一生をユーモラスに描いた、ちよっぴり哲学的で心温まる絵本です。そんなおすすめの一冊です。

S・K (八千代東)



『だから僕は練習する』

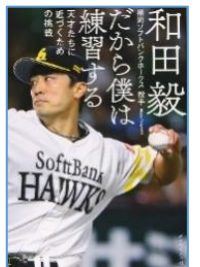
和田 毅 著

78 ㍻

プロ野球選手・和田毅さんが自身の経験から「努力」と「逆境」を乗り越える力を語る本です。言い訳のできないプロの世界の中で、和田さんがどのように結果をだし続けたのか、スポーツに打ち込む人なら共感できるエピソードが詰まっています。

才能だけでなく、「ひたむきに練習」の積み重ねが成功を引き寄せるというメッセージは、勉強や部活動で頑張るあなたの背中をきつと押してくれるはずです。

HASHEGAWA (八千代)



『チームバチスタの栄光』

海堂 尊 著

83 千

東城大学医学部附属病院の誇り
でる天才外科チーム、「チームバチ
スタ」は、原因不明の連続術中死に直
面します。そこで病院長は、万年講
師の田口医師に内部調査を依頼し
ます。病院内の権力争いや様々な謀
略。人の醜さや弱さ、温かさが鮮明に
描かれているメディカル・エンターテ
イメントです。はたして医療過誤死
か殺人か。是非読んでみてください。

KOBAYASHI (八千代)



『誰が勇者を殺したか』

駄犬 著

81 ダレ

世界を恐怖に陥れていた魔王を倒
した勇者。しかし、彼は帰らぬ人となっ
てしまう。勇者は如何にして死んだの
か？勇者とパーティーを組んでいた3
人の視点から、勇者の人生が語られる
時、隠されていた真実が、「勇者の最
期」が明らかになる。
勇者の生き方が、仲間を、世界を変
える、胸打たれるヒューマンドラマ。

KAKUMOTO (八千代)



『超一流になるのは才能か努力か？』

アンダース・エリクソン ロバート・プール 著

84 千

「あの人が成功したのは才能があるから
だ。」「努力する才能があるから成功した。」
皆さんは、こんな意見を見たことがありま
せんか？スポーツや芸術の世界で成功して
いる人とは違って、自分には才能がないから
努力しても上達しない...と考えている人は
大勢いるはずですが、じゃあこの本は、そう
ではなくて誰でも才能に関係なく「超一流」
になる！という内容ではありません（残念！）。
この本の筆者は、ある音楽大学で調査を
行い、超一流・一流・二流の人を分ける要因
は練習の質だとまとめました。そして、超一
流の人が行っているような、能力を向上させ
やすい練習を「限界的練習」と名付け、読
者に対して「限界的練習」の説明や、練習を
行うためのアドバイスを与えてくれています。
自分も確かに「限界的練習」を行うこと
ができれば、何事も上達するだろうと考え
てきたが、常に上達できる状態に自分をお
いて練習するの、なかなか大変なことだろ
うと思いました。やはり超一流になるよう
な人は長期間練習を続けてきた凄い人たち
なのです。



R・M (八千代西)

『探偵はもう死んでいる』

二語十 著

82 タ

この小説のお薦めポイントとしては
①推理やミステリー、ラブコメ、コメデ
イ、戦闘の混ざったものであると言うこ
と。②会話系がとて多く主人公とそ
の他登場人物との関係がわかりやすく
理解しやすいと言うこと。③恐らく二
語十先生（筆者）の想像力が良すぎる
ため会話がとても面白いこと④そもそ
もミステリーとラブコメを混ぜつつもコ
メディを入れてくること自体がすごいで
す。

KUMASAKA (八千代)



『天空の城ラピュタ ジブリの教科書 2』

スタジオジブリ 著



みなさんはジブリ作品を観たことがありますか？私は何度観ても飽きません。ストーリーはもちろん、作品に登場する素敵なキャラクターも魅力的です。どうしてジブリ作品は、子どもから大人まで多くの人々に愛されるのか。

この本は『天空の城ラピュタ』について、製作の裏側や作品に対する解釈が書かれていて、より深く作品を知ることができます。新しい視点で作品に触れる楽しさをぜひ味わってください。

Y・T（八千代西）

『とんび』

重松 清 著



『とんび』は、父・ヤスと息子・アキラの親子の絆を描いた感動作です。最愛の妻を突然亡くし、不器用ながらも必死に一人で息子を育てようとするヤスの姿が心にしみ入ります。昭和の時代背景の中で、親子の葛藤や成長が丁寧に描かれ、家族の在り方を改めて考えさせられます。優しさや温かさに満ちた物語で、涙なしには読めません。家族の大切さを感じたい人におすすめです。

U・T（八千代東）

『天国までの49日間』

櫻井 千姫 著



このお話は、亡くなってから自分が天国に行くか地獄に行くか、決めるまでの物語です。お話自体は一巻で終わるけど、物語は続いているので続きが気になる人でも最初のお話だけで大丈夫だと言う人でもいいです。最初のお話は、ページが少し厚いけれど、おもしろいのでどんどん読めちゃいます。感動的な場合もあるし、みんなそれぞれ個性が違い、楽しいのですごくオススメです。

K・Y（八千代東）

『とんこつ Q&A』

今村 夏子 著



4編を通じて、人間の心の中を描いた作品です。相手のためと想っていた行動や言動、表面上はまっすぐ、純粋に過ごしている登場人物ら。しかし、なぜかその行動や言動に異常性、違和感を覚えてしまう。読んでいる自分がまともなのか、登場人物らがまともなのか：普通とは何か、ずれているとは何かを考えさせられる作品です。きつと読み終わったあと、あなたも違和感を覚えるでしょう。

TUKAMOTO（八千代）

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

東野 圭吾 著

廃業した雑貨店に迷い込んだ若者たちが、過去に寄せられた相談の手紙を発見し、それに対する答えを通じて、様々な人々の人生と接点を持つこととなります。各エピソードを通じて、人間の絆や希望、悩みの解決が描かれ、心温まるストーリーが展開されます。

運命の不思議さや、思いやりの重要性を感じさせる作品です。

HIGUCHI (八千代)



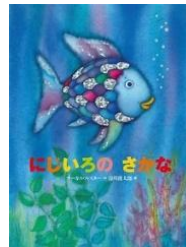
『にじいろのさかな』

M・フェスター 著

虹色に輝く世界一美しい魚がいました。他の魚たちから鱗が欲しいと頼まれました。ですが、虹色の魚は自分が美しいことが幸せだと考えていたため、その頼みを断り続け、周りの魚が自分から離れていき、幸せとは何かを考え始めるようになりました。試しに鱗を他の魚にあげると、海の中が虹色に輝きました。

他人を思いやることこそが本当の幸せだと気づくのです。

ITO (八千代)



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

東野 圭吾 著

悪事を働いた三人が逃げ込んだ古い家は、かつて悩み相談を請け負っていた雑貨店だった。ある日、廃業しているはずの店内に、突然郵便局口から悩みの手紙が届いた。時空を超えて過去から投函されたのか？ 三人は戸惑いながらも当時の店主に代わって返事を書くが…。

悩める人々を救ってきた雑貨店は最後に再び奇蹟を起こせるか！？

SAKURAI (八千代)



『人間標本』

湊 かなえ 著

幼い頃に、蝶の美しさに惹かれ蝶研究の学者になった主人公。美しい蝶を見ては標本にして一番美しい状態で保存していた。

ある日、息子を含む六人で親友、画家・瑠美の後継者選定の合宿を計画する。子供たちの美しさを蝶のように感じ、標本に残そうと猟奇的に変貌していくお話。

主人公の心境の変化が細かく描かれていてゾクゾクするけれど、目が離せない、そんなお話だった。ミステリーやホラーが好きな人に読んでほしい。

H・Y (八千代東)



『鋼の錬金術師』

荒川 弘 著

95 ハガ

「等価交換」をテーマにした漫画、『鋼の錬金術師』をオススメします！錬金術師であるエルリック兄弟が、様々な事件を解決していくうちに、国規模のとても大きな陰謀に立ち向かっていくストーリーです。この作品は、戦争、差別、過去と罪等の重く、リアルなテーマを扱っており、現実社会で起きている問題と結びつけて考え直すきっかけになるかもしれません。ストーリーのテンポが良く、予測不能な展開が多く続いていくため、読み応えがある作品です！

読む前と読んでいる最中、読んだ後で等価交換という言葉の意味が二転三転していくことになると思います、是非その感覚を味わって頂きたいです！

W・T（八千代東）



『任侠学園』

今野 敏 著

93 ニ

義理と人情で生きる昔気質のヤクザが、経営不振で問題だらけの学校再建に乗り出すストーリー。社会奉仕に目のない組長が厄介事を引き受けてしまう。ナンバー2の日村が、気は進まないが高校へ向かい、そこには無気力無関心な生徒、生徒と係わることを諦めた先生たち。日村は生徒一人ひとりを認め接することで少しずつ学校が変わっていく。ところどころに出てくる「本職」の迫力も見所で、「生徒は舎弟と思え」日村の言葉がいいです。

H・S（八千代西）



『方舟』

タ木 春央 著

96 ハコ

方舟に集いし十人。彼らに襲いかかる災難の連続。彼らが方舟から無事に帰るには一人生贄を出さなければいけない。でなければ全員が死ぬ。そんな状況下で起きた不可解な事件。彼らのうちの一人が殺されていた…誰が生贄になるのか？なるべきなのは誰だ？それは…犯人以外いない。本当に救われるのは誰か！？あなた自身が確かめてください。

A・B・E（八千代）



『野村克也知略と戦略―弱者を勝者に変えるメソッド』

二宮 清純 著

94 ノ

野村克也さんの「知略と戦略」は、野球の戦術やチーム運営の秘訣をまとめた一冊です。データを使ったID野球や選手一人ひとりに合わせた指導法は、勝利への強い情熱が伝わってきます。リーダーシップや組織作りのヒントも多く、野球ファンだけでなく、目標に向かって努力するすべての方におすすめです。ぜひ読んでみてください。

R・F（八千代東）



『ハニーレモンソーダ』

村田 真優 著

中学時代にいじめられた過去を持つ石森羽花は、自由な校風の高校に進学し、そこにはレモン色の金髪をした”レモンソーダ男子”の三浦界がいた。自由奔放で塩対応だが、実は心優しい界の姿に羽花は徐々に心惹かれていく。どんどん界の秘密を知って行き、2人の距離が縮まっていく様そんな高校生たちの甘く青い物語が一冊の本にまとめられています！ぜひ読んでみてください!!

SUGAI (八千代)



ハリー・ポッターシリーズ

J.K. ローリング 著

少年ハリー・ポッターが学友たちとともに闇の魔法使いヴォルデモートに立ち向かう物語です。ハリー達登場人物の心理描写が細かくされており、多くの登場人物がいながらも誰一人として似たような登場人物がいなかったため、それぞれの登場人物に感情移入ができ、とても満足感を得ることができる小説になっています。映画とは違ったシーンもあるので是非見てみてください。

KUWANO (八千代)



『ハリー・ポッターと賢者の石』

J.K. ローリング 著

今回私がおすすする本は「ハリー・ポッターと賢者の石」です。今更なぜ？それは、最近私自身が約20年ぶりに読み直し「やっぱり最高だ！」と感銘を受けたからです。20年以上前の作品ですが、登場人物や物語の舞台がとにかく緻密に設定されているので、色褪せることの無いファンタジーな世界に引き込まれます。原作はかなり分厚く、最初はとつきにくいかもしれませんが、映画では表現しきれない細かな心情や、舞台背景も読めるので一読の価値あります。

S.O (八千代西)



『ピーカーくんのなるほど理科室用語辞典』

うえたに夫婦 著

この本は、理科室で使われるさまざまな用語をわかりやすく解説した辞典です。実験器具や化学物質、単位、現象などがイラストとともに紹介されています。実験の準備にしか使わないマイナーな道具とかもあるので、読んでみると面白いです。

また、様々な科学現象の解説も載っているのです、科学と人間生活を履修している人はぜひ読んでみてください。

T.I (八千代西)



皆さんは、「○○になったらどうしよう」といった不安な気持ちに押しつぶされそうになったことはありませんか。生きていくうえで不安はつきものです。本書では、精神科医の和田秀樹さんが「不安と向き合う基本」から「不安に引きずられないコツ」「平常心で生きるコツ」「不安を力に変える習慣」についてわかりやすく紹介しています。これを読むと心がスツと軽くなりますよ。

M・M(八千代西)



人と話すことが得意な人が「コミュニケーションの上手な人」だと思っていまいませんか？本書では意外にも聞き上手な人こそがコミュニケーションの達人であると教えてくれます。「聞き上手はこれをやらない」や、リアクションの重要性などをわかりやすく解説してくれて、読んだらすぐにでも実践できそうな内容が満載です。口下手で会話がなかなか続かないなあと思む人にぜひ読んでほしいです。

I・K(八千代西)



この漫画は、一見平和な日常とグロテスクな非日常が交錯する衝撃的な作品です。序盤の穏やかな展開から一転、恐怖と狂気に満ちた展開が続き、読者を一気に引き込んでいきます。小夜の無垢さと戦士としての残酷さのギャップ、そして物語後半で明かされる真実が非常に切なく、重たい余韻を残します。作画の美しさと独特な世界観が際立ち、ダークファンタジーとして非常に完成度の高い一作です。

R・K(八千代東)



最近ではスマートフォンやPCの画面を見るばかりで、目も心も疲れる日々だったが、たまには青い空や太陽を眺めてみようと思えるそんな作品でした。

話は手塚治虫作品ということもあり、なかなか難しいですが、感想はともシンプルで「美しい」ただその一言に尽きます。

私ごときではこの作品のよさを伝えきれないので是非、お手にとって読んでみて下さい。

H・E(八千代西)



『変な家』
雨穴 著

この本はある一軒の家の間取りの違和感から始まります。一見しただけでは、ごくありふれた民家に見えますが注意深く見ていくと家中のそこかしこに奇妙な違和感があることに気づくでしょう。その違和感を追求していくうちに、ある恐ろしい事実に辿り着くことになります。

二〇二四年に実写映画化し、反響を呼びました。本の中身は四部構成でイラストがあつたり台本のような書き方になっていたりするため、小説が苦手な方にもオススメです。ぜひ何周も読み込んでみてください。

M・S（八千代東）



『僕は明日、昨日の君とデートする』
七月 隆文 著

この作品は、時間や運命をテーマにした切ない恋愛ストーリーで、映画化もされています。時間がずれているような感覚がとても印象的で、読んでいるときに胸が少し締め付けられてしまうような一冊になっています。主人公の「僕」と「君」が紡ぐ不思議な関係、本気で恋したことがある人にはもちろん、まだしたことがない人にもぜひ読んでほしいオスメの一冊です。



R・F（八千代東）

『変な家 2 Ⅱの間取り図』
雨穴 著

ある日、フリーライターの「筆者」に新たな謎が？これは根岸さんの記憶に埋もれていた間取り、そこから生まれた謎「必要ない廊下」から始まる物語。

「変な家」作品第二弾の今作は、十一個の間取りが登場する。一見なんの繋がりもないお話、なんて考えていちゃあだめ！全てのお話が合わさった時、見えてしまう真実とは？ぜひお手元に！

K・I（八千代東）



『僕はイエローでホワイトでちょっとブルー』
プレディ みかこ 著

イギリスで暮らす著者と中学生の息子の生活を描いたノンフィクション。多文化社会の中で、差別や偏見、アイデンティティの問題に向き合う親子の視点がリアルで心に響く作品です。身近なエピソードを通じて「違いを認め合うこと」の大切さを考えさせられます。読むと私たちの日常や社会の見方が少し変わるかもしれません。学校や友達との関係にもつながるテーマなので、高校生にぜひ読んでほしいです！



ODAKA（八千代）

『僕はイエローでホワイトでちょっとブルー』
プレディ みかこ 著

人種も貧富の差もごちゃまぜの元底中学校に通い始めたぼく。人種差別丸出しの移民の子、アフリカからきたばかりの少女やジェンダーに悩むサッカー小僧。まるで世界の縮図のようなこの学校では、いろいろあって当たり前。イギリスの公立中学校を舞台に通う一人息子の成長を描きながら、多様性に生きる“ややこしさ”と“奥深さ”を伝える。最後はホロリと泣ける、感動のリアルストーリー。

KUMAMOTO (八千代)



『ぼくらの7日間戦争』
宗田 理 著

個性的な生徒たちが集まる、星が丘学園中等部一年2組通称「ワルガキ組」。教師らしくない態度でフランクに接する新しい担任、甘利をぼくらは認めはじめた。そんな折、ぼくらの住む星が丘で、なぜか大人だけにある症状が発症した。

おとなたちは避難を余儀なくされ、子どもたちは聖域を手にいれることになる。子どもだけの居留地で、ぼくらはどんな軌跡を起こすのか!？ 僕らの奇跡の7日間。

TANAKA (八千代)



『ぼくらの学校戦争』
宗田 理 著

この本の主人公は菊地英治です。彼が過去に通っていた小学校が廃校になる事を知り、同級生と一緒に校舎を「幽霊学校」にする計画を立てます。しかし、仲間達と協力して作業していましたが、ある日、本物の人間の死体を見つけ、凶悪犯の存在を英治達は知りました。逃げずに仲間と協力して凶悪犯と戦う場面がこの本の特に面白いところで、この勇姿ある姿が読者に勇気や感動を与えるでしょう！

H・K (八千代東)



『星を掬う』
町田 そのこ 著

この作品は母と娘の関係を描いた物語です。

主人公の芳野千鶴は元夫のDVに苦しめられています。千鶴は賞金目的でラジオ番組企画に応募し、その番組を偶然聞いた恵真という女性がラジオ局に連絡して会うことになりました。千鶴は小学一年生のときに母親と別れていて、十二年ぶりに母親と再会します。かつて自分を捨てた母と他の同居人、「普通」の家族関係を築けなかった者たちが自分て乗り越えていく、人々の愛と優しさにきつと、心が救われます。

C・O (八千代東)



『都会のトム&ソーヤ』

はやみねかおる 著

115 マ

学校始まって以来の秀才と言われるほどの頭脳を持ち大財閥である竜王グループ後継者の竜王創也と、幼い頃おばあちゃんにサバイバル術を鍛えられた自称普通の中学生、内藤内人。ひよんなことから仲良くなり親友となった2人は知力とサバイバル力を駆使して究極の「R・RPG」(リアル・ロールプレイングゲーム)を作るために奮闘する。中学生コンビの新・冒険記!

WATANABE(八千代)



『本屋さんのダイアナ』

柚木 麻子 著

113 杉

キヤバクラで働いている母と2人暮らしの少女、大穴(ダイアナ)。この変わった名前は、別れたギャンブル好き父親がつけたとのこと。この名前と、母親に染められた金色の髪の毛のせいで、学校でも友人と馴染めずにいた。そんな自分が大嫌いだっただいアナだが、読書を通じて彩子と仲良くなる。

家庭環境が正反対の二人が歩んでいく物語には、たくさんのが詰まっています。教員として、親として色々と考えさせられた一冊です。これから大人になっていく高校生の皆さんにも、おすすめの一冊です。

K・H(八千代西)



『まんが 日本の歴史』

116 マ

日本の歴史をまんがでわかりやすく再現している本です。日本史を勉強しているときに、教科書の文章が分かりづらく、辛い思いをしたことはありませんか? そんなあなたに読んで欲しい本です。日本の歴史をイラストで頭に入れることができるので、記憶にも定着しやすいです!

日本史を選択していない人にもおすすめです。自国の歴史を楽しく学びましょう!

MIZUSIMA(八千代)



『本日は、お日柄もよく』

原田 マハ 著

114 杉

同じ言葉を繋いでいるのに心に響くスピーチがあります。だれかが助けているのかもしれない。

人に頼らずとも思いが届く話ができたらと、どれだけの人が熱望しているでしょう。いつもは本棚の片隅にあり、いざという時あなたを助けてくれる。そんな本があったらと、どれだけの人が探していることでしょうか。そんな人には、この本がおすすめです。

「本日はお日柄も良く…」観衆に語り掛け、琴線に触れるスピーチができる。そんな自分になりたくないですか?

SAITO(八千代)



『みんな蛍を殺したかった』

木爾 チレン 著

119 ミ

蛍は人身事故に遭いバラッバラになって死んだ。真相は何もかも謎のまま。彼女を囲んでいた三人の少女達の間、一体何があったのか。優しく、部活にも精を出し、容姿にも恵まれ、誰からも愛された七瀬蛍。だからこそ、みんな殺したかった――。

自分より優れた誰かに嫉妬したことがある人、「自分より優れているひとはいなくなればいいのに」そう思った事がある人は、この物語に救われるか、絶望に突き落とされるかもしれない。



H・T (八千代東)

『マンガでやさしくわかるアサーション』

平木 典子 著

117 マン

「アサーション」とはアメリカで生まれたコミュニケーションの考え方と方法です。人間には自己表現の特徴があり、それぞれ「非主張的自己表現」「攻撃的自己表現」「アサーティブな自己表現」の3タイプに分類されます。まず、自分がどのタイプなのかを客観的に考えます(チャートが付いています)。そして、「自分も相手も大切にする自己表現」を目指してトレーニングするのが大切なのだそうです。

この本にはトレーニング方法がイラストや図を交えて楽しく紹介されています。



Y・K (八千代西)

『無人島に生きる十六人』

須川 邦彦 著

120 ムジ

1880年、遭難した日本の商船「帝国丸」の乗組員16人が無人島での過酷なサバイバル生活を余儀なくされます。彼らは知恵と団結力で困難を乗り越え、全員が無事に生還。実話に基づくこの物語は、極限状態での人間の強さと絆を描き出し、感動と勇気を与えます。ぜひ読んでみてください。

TAKAHASHI (八千代)



『見てわかる、迷わず決まる配色アイデア』

3色だけでセンスのいい色』

寺本 恵里 著

118 ミ

イラストやポスターを書く人におすすめの本があります！

それは『見てわかる、迷わず決まる配色アイデア3色だけでセンスのいい色』です。

これにはカラーコードがしっかりと記載されていたり、使用する色の割合を変えた見本も載っていたりします。デザイン職の方はもちろん、絵を描き始めた人などにもオススメできる素晴らしい本です！私自身もとてもお世話になっている本なので、是非一度手に取ってみてください！



R・S (八千代東)

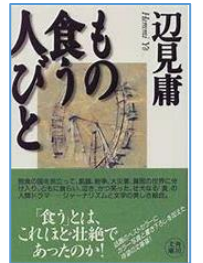
『もの食う人々』

辺見 庸 著

この一月朝日新聞で「一皿から見える世界」というコラムが連載されたが、30年前にそれを一人で実践したルポ。世界中を旅してその土地のものを食う。たとえばタイでソムタムを食べながら猫用缶詰工場で働く女の子に問うた「日本の猫のために缶詰を作っていること、どう思う？」との質問を悔い、目の前の食の背景に対する想像力の必要を説く。

見えない像をみなさい。聞こえない音を聞きなさい、を指針とするこの本は、今なお新しい。

HABAKKARI(八千代)



『夢をかなえるゾウ』

水野 敬也 著

普通のサラリーマンの主人公は自らを変えようとしたが、失敗しつづけてきた。ある日は泥酔したままインドで買った置物に「人生を変えたい」と泣き叫ぶと、翌朝枕元に関西弁を話す謎の生物が。それは置物から化けて出てきた神様、ガネーシャであった。主人公は夢をかなえるためにガネーシャの課題を行うことになる。ガネーシャの課題は、靴を磨く、コンビニでお釣りを募金するなど。主人公は夢をかなえることができるのか？



TOKI(八千代)

『ももこの話』

さくら ももこ 著

女性漫画家でエッセイが面白いといえば、西原理恵子、三浦しおん（作家ですがエッセイがとてつもなくおもしろい）、そしてさくらももこということになるでしょう。これ一冊だけでなく、すべてのエッセイがおもしろいので、何でも良いので読んで欲しい。本作も小さいころのを中心として、胸があたたかくなると同時に爆笑エピソード満載のエッセイ集です。

KOBAYASHI(八千代)



『夢をかなえるゾウ』

水野 敬也 著

主人公は「人生を変えよう」として何かを始めるけど全部三日坊主に終わってしまうサラリーマン。しかし、ある日突然、彼の目の前にゾウの姿をした奇妙な生き物が現れます。「ガネーシャ」という名を持つインドからやってきたこの神様。「成功するためにはどうしたらいいか?」「そもそも成功とはなにか?」「成功を願う普通のサラリーマンと奇妙な姿の神様の話です。」

KASAGI(八千代)



『容疑者 X の献身』

東野 圭吾 著

127 ㍿

ドラマ、映画化されたガリレオシリーズの作品です。「愛」という理論的ではない感情を天才数学者が描く物語です。多くの人物の感情が入り交ざった本格的なミステリー小説です。もちろん天才同士の緻密なやりとりは引き込まれます。愛する人への「献身」、子供への「献身」、友人への「献身」、たくさんの登場人物の「献身」が描かれています。読むたびに新しい感じ方を発見させられます。本が苦手な人はまず映画から見てみてください。



S・O（八千代西）

『夢をかなえるゾウ』

水野 敬也 著

125 ㍿

変わりたいと思うが変われない、そんなどこにでもいるような普通の会社員が象の姿をした神様ガネーシャと出会う話です。ガネーシャは、契約をするならば主人公を成功へ導いてあげると言います。主人公は、不満を抱えた人生をそれに賭けてみることに…。ガネーシャは主人公へ毎日課題をだしていきますが、課題はとても簡単なものばかりです。その課題は成功に近づくために必要なのか…。そして成功するためには何が必要なのかがわかる本です。



A・I（八千代東）

『容疑者 X の献身』

東野 圭吾 著

128 ㍿

天才数学者でありながら不遇な日々をおくっていた高校教師の石神は、一人娘と暮らす隣人の靖子に秘かな想いを寄せていた。彼女たちが前夫を殺害したことを知った彼は、二人を救うために完全犯罪を企てる。だが皮肉にも石神のかつての親友である物理学者出の湯川学がその謎に挑むことになる。非常にシンプルな物語なのに考えれば考えるほど惹きつけられる。



KATAOKA（八千代）

『夢をかなえるために脳はある』

池谷 裕二 著

126 ㍿

現在東大薬学部に所属の池谷教授の専門は脳の中でも海馬に関わる領域。三部作となる脳講義シリーズの完結編となった今回は、六百ページを超える充実の一冊。脳にとって特に効果的な学習は三つあり、困難学習・地形学習交互学習が挙げられているが、これは授業の展開を考える自分にとって学べるものがあり刺激的な発見もあった。そして今回のタイトルに込められた本当の意味は予想外のもので新鮮な驚きがあった。



HOSHINO（八千代）

『夜のピクニック』

恩田 陸 著

131 ㍻

『夜が明けたら朝が来る』

志馬 なにがし 著

129 ㍻

福岡県門司港でママと2人で暮らす高校生のアサには推しの歌手「Yoru」がいる。音痴な自分も上達するため歌を練習する中、推しが突然活動を休止。さらにママは本当のお母さんではなく、生まれた時に取り違えられたことが判明する。アサは本当の家族に会いに行くが、取り違えられていた相手が「Yoru」だと判明し…。

これは、家族がもう一度家族になるための物語。ぜひ読んでみてください。

YAMAGUCHI (八千代)



舞台は「北高校」で行なわれる鍛錬歩行祭です。鍛錬歩行祭とは全校生徒が夜を徹して80キロを歩き通すという北高の伝統行事の事です。主人公は高校3年生の甲田貴子。彼女は高校生活最後を飾るイベントの歩行祭で密かな誓いを胸に抱いていた。学校生活の思い出や卒業後の夢など語らいつつ、親友たちと歩きながらも貴子は小さな賭けに胸を焦がしていた。夜通し歩きながら紡がれていくそれぞれの絆。青春を感じる一冊です。

K・T (八千代西)

『流浪の月』

凧良 ゆう 著

132 ㍻

『よるのばけもの』

住野 よる 著

130 ㍻

主人公は、高校生活に悩む一人の少年。彼は、ある夜、不思議な存在「ばけもの」と出会います。この出会いを通じて、彼は自分自身の内面と向き合い周りの人々との関係を再考することになります。物語は、幻想的な要素と現実が交錯し読者を惹きつける描写が魅力的です。友情や愛、そして恐れと向き合う姿は、多くの読者に共感呼び起こすことでしょう。

私達にも大人にも深い感動をもたらす一冊です。『よるのばけもの』を通じて、誰もが抱える心の葛藤に寄り添い、少しでも勇気を与えてくれることでしょう。

MATUDA (八千代)



私はこの本を読み、過去の出来事に縛られたふたりの痛みや孤独に胸を打たれました。

物語はさまざまな登場人物の視点や気持ち場面ごとに丁寧に描かれています。「あのときこの人はこう思っていたんだ」と知るたびに物語への理解が深まり、読む楽しさが増しました。ゆるしとは何か、人との距離の取り方とは…と静かに問いかけてくる一冊です。読み終えたあとも、登場人物たちの不器用な優しさが心に残ります。

H・A (八千代東)

『六人の嘘つきな大学生』

浅倉 秋成 著



それは突然起きた殺人事件。

―容疑者は六人の大学生。仲が良さそうに見えたけど、全員が何かを隠している、みんな嘘をついている？

読み進めるほど真実が見えなくなつて、「誰が犯人なの……」って何度も思われる。最後のページまで気が抜けない、みんなで騙し合い、ウソとホントが交差する。

人間関係の怖さや、信じることの難しさにも気づかされる。

さああなたも一緒に考えてみよう。

K・M(八千代東)

『忘れられた日本人』

宮本 常一



富五郎翁は、幼くして親兄弟を失い、ある漁師に引き取られ、生涯一漁師として、人生を過ごされた方です。漁師仲間と魚を追いかけて、浜に漁師小屋を建て、自分たちが所有する小さな船と漁に使用する僅かな道具を使い、港を整備しました。私が驚嘆するのは、彼らの生活から生まれ、生かされる知恵の数々。体系整理された学問や知識がなくとも、自らの経験から絞り出した知恵で難事を乗り越えていくのです。「どうも偉いのは人のようだ。」「たのしみといっても、それは漁のたのしみというようなもの。」「

富五郎翁は妻に菓子の作り方を教え、妻の小商と漁で日々の糧を得ました。哲学者アランは「幸福論」の中で、賢人とは、船が難破し、陸地に泳ぎ着き、我が身一つ以外全て失っても、「自分は全財産を持っている」という人物だといいます。アランのいう人生の達人、それが梶田富五郎翁なのです。

M・A(八千代西)

『禍』

小田 雅久仁 著



セカイの底を、覗いてみたくないか？
「私」は、平凡な会社員として毎日を送っていたが、ある日突然、過去の記憶がよみがえった。彼は自分がかつて別の人生を送っていたことを思い出し、それが自分の今の人格に大きな影響を及ぼしていることに気づく。そして、過去の出来事と現在の自分をつなぐ謎を解明するため、「私」は過去を探る旅に出る。そこで体験する数奇な運命とは……。 (「耳もぐり」より) 足底から湧き上がる不快感驚異的な恐怖を体感せよ！

KITAGAWA(八千代)

『私が彼を殺した』

東野 圭吾 著



婚約中の男性の自宅に突如現れた一人の女性。男に裏切られたことを知った彼女は自殺を図り、一方で男は自分との関わりを隠蔽しようとする。醜い愛憎の果てに殺人事件が起こるが、容疑者候補は3人。章ごとに主役が変わり、読者が様々な視点から推理し謎を解いていく、東野圭吾の加賀恭一郎シリーズの一作です。

KAWABATA(八千代)

『ONE PIECE』

尾田 栄一郎 著

海賊王を目指す主人公、モンキー・D・ルフィが、伝説の宝「ワンピース」を求めて冒険を繰り広げる物語です。迫力ある戦闘する場面、楽しい場面、心揺さぶる感動的なエピソードが見事に調和し、少年漫画の王道として輝きます。

この漫画を読んで、仲間と一緒に冒険する主人公ルフィがかっこいいと思いました。

Y・S（八千代東）

